

盆踊り、打ち上げ花火、模擬店など、夏の風物詩を楽しむ 「納涼夏まつり」今年も盛大に開催



それいけ！アンパンマンショー（第2会場）
© やなせたかし/フレール館・TMS・NTV



ミニSL（第2会場）



盆踊り（第1会場）



打ち上げ花火（第1会場）



盆踊り（第2会場）

鳩山町納涼夏まつり実行委員会の主催により、8月4日に第1会場である中央公民館北側駐車場で、5日には第2会場である鳩山ニュータウンセンター地区広場で納涼夏まつりが開催されました。

商工会主催から数えると13回目となった納涼夏まつり。今年もボランティアを含む多くの方々のご協力により、たくさんのにぎわいが生まれました。この夏の風物詩は、皆さんの思い出の一つとなり、町への愛着を生むイベントとなったことでしょう。



模擬店（第2会場）



ステージ発表（第2会場）



園児たちの踊り（第1会場）



浴衣姿でピース（第1会場）



このコーナーでは、鳩山町コミュニティ・マルシェに関わる人たちをご紹介します。

エムちゃん農園さん

平成30年3月から、「まちおこしカフェ」に有機肥料で栽培している野菜などを出品している本水光子さんにお話を聞きました。

まちおこし カフェ 出品者

「野菜作りを始めようと思ったきっかけは何ですか」
私は京都出身ですが、その頃、周囲から「田舎からの仕送りで野菜をもらった」といった声や、いいなあといいなあと聞かれました。結婚を機に東京都へ、その後鳩山に移り住んで、畑を借りられる環境になったので、憧れだった野菜づくりを始めました。
「実際に野菜作りを始めてどうですか」
現在は、赤沼地内に70坪ほどの畑を借り、試行錯誤しながら季節の野菜を育てています。野菜作りをしていると明日が楽しみで、毎日が充実しています。夢だった、自宅で玉ねぎなどを干す光景も実現できました。今は一人暮らしですが、畑を通じて地元の人との交流も増えました。

憧れだった野菜づくり 明日が楽しみな毎日です



▲光子さんが書き留めている「畑の記録」。「覚えていられないから」と照れ笑いしながらも、野菜作りへの情熱が伝わってきます。



夢だったという自宅での「玉ねぎ吊るし」。自宅にも畑の「匂い」があふれます。▶

「まちおこしカフェへの出品はどのような経緯ですか」
これまでは知人などに収穫物を買っていただいていたのですが、まちおこしカフェへの出品で、不特定多数の人に販売ができ、栽培量と消費量のバランスが取れるようになりました。買っていただける人の顔はまだ分かりませんが、リピーターの方もいらっしゃると思えるような状況が、とてもありがたいです。
「今後の抱負を教えてください」
今年で82歳。年齢的にも来年くらいでやめようと思っていました。買ってくださいる人がいるのでやめられませんが、これからも体がもつ限りは、ずっと畑仕事を続けていきたいです。

鳩山中学校吹奏楽部が 県代表として西関東大会へ出場

8月7日の県大会で金賞を受賞した鳩山中学校吹奏楽部の皆さん



県内の吹奏楽コンクールでは最大となる「第59回埼玉県吹奏楽コンクール(中学校・30人以下の部)」で、鳩山中学校吹奏楽部が、地区大会に続き見事金賞を受賞し、同中学校としては初の快挙となる西関東大会への出場権を獲得しました。おめでとうございます！

埼玉・群馬・山梨・新潟4県代表の30校が参加する「第24回西関東吹奏楽コンクール」は、9月15日に群馬県前橋市内で行われ、6校が東日本大会へ進みます。

ニュータウンふくしプラザに 作品展示中の「権次郎」さんが テレビで紹介されました

小さな部品はすべて精巧に作られており、圧巻です。



テレビ朝日で毎週放送されている「人生の楽園」(8月11日放送分)で、町内在住の山際正幸さん・朱美さんご夫妻が紹介されました。正幸さんは、作家「情景模型 権次郎」を名乗り、趣味で昭和の風景を切り取ったミニチュア模型を製作し、ニュータウンふくしプラザに作品を展示しています。

作品を見ながら、皆さんもぜひ、昔話に花を咲かせてみてください。

レポート

「サラダランチ」で多くの人がオーガニック野菜を堪能



鳩山高校の生徒も応援 ▶

7月29日、まちおこしカフェに農作物を出品している元氣パートナーズ倶楽部の主催により「オーガニックサラダをたっぷり楽しむランチ」が、鳩山町コミュニティ・マルシェ内で行われました。

参加者は、町内で育った栄養満点の野菜を味わったほか、農薬の落とし方やドレッシングづくりを学んだり、カラーリングゲームを楽しみました。「今後も開催してほしい」とイベントは好評でした。